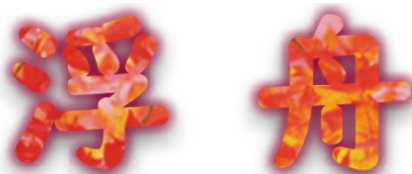




学校だより



u k i f u n e

令和6年11月21日(木)
第29号

〒979-2157
南相馬市小高区吉名字中坪1
TEL 0244-44-2023

「学ぶ」ということ② ～繰り返しお伝えしたいこと～

「第二次世界大戦に日本が参戦した理由をいくつか考えてみましょう。」

もし、このように質問されたとしたら、皆さんはどのようにお答えになるのでしょうか。私たち大人はもちろん、中学3年生はすでに歴史分野で詳しく学習しているはずですが、多くの人たちにとって、すらすら答えることは容易なことではないかと思われます。私たちの多くがきちんと第二次世界大戦について学び、当時のテスト等で正解していた経験があるにもかかわらず、知り得た知識や記憶がいつの間にか薄れるなどして答えられなくなっているのです。一方このような質問に人工 AI は瞬時に答えることができます。以下にその解答例を紹介します。

AIの出した答え:日本が第二次世界大戦に参戦した理由は複雑で、多くの要因が絡み合っています。以下に主な理由を挙げます。

経済的な圧力:1929年の世界恐慌により、日本を含む多くの国が深刻な経済危機に直面しました。日本は資源に乏しく、経済的な自立を目指すために他国の資源を求めようになりました。

軍事的な野心:日本はアジアにおける支配権を拡大しようとする軍事的な野心を持っていました。特に中国や東南アジアの資源を確保するために、軍事行動を強化しました。

国際的な孤立:日本は国際連盟からの脱退や他国との対立により、国際的に孤立していました。この孤立感が、さらなる軍事行動を促進しました。

アメリカとの対立:日本はアメリカとの経済的・軍事的対立が深まり、特に石油などの重要資源の供給が制限される中で、戦争を避けられないと判断しました。

これらの要因が重なり合い、日本は1941年に真珠湾攻撃を行い、第二次世界大戦に本格的に参戦することとなりました。
[Microsoft Copilotより]

これらの答えをいつでも瞬間に導き出すことのできる AI のすごさを改めて感じさせられます。では、私たち人間のこれからの**学び**とは一体どうあるべきなのでしょう。そのヒントの一つとして、上記 AI の解答例が本当に信憑(びよう)性、妥当性のあるものか『**検証**』する力に注目していくべきと言われています。AI の導き出す答えを鵜(う)呑みにすることなく、情報を吟味し、自分なりの判断をしていく力こそ、今私たちが身につけるべき**学び**と考えます。

さらに考えるべきは、これまでの受け身学習からの転換です。何度も紹介している例ですが、自動車のナビゲーションシステムでたどり着いた場所を、いつまでたっても覚えられないといった経験はないでしょうか。**教えられただけでは忘れやすい**という典型的な例です。第二次世界大戦に日本が参戦した理由を書いてある教科書で知るのではなく、例えば「**どうすれば日本が参戦せずに済んだのか**」といった課題をもって調べることで、学習者の主体性が高まります。さらに友人との協働学習を通して自分に足りない視点等を補完することで「**経済面**」「**軍事面**」「**国際的立場**」「**対アメリカ**」といった視点に自分で気がつくことが何よりも重要であり、そのスキル(技能)こそ『**生きる力**』に繋がります。また逆に言えば、第二次世界大戦に参戦した理由(過去の出来事や史実として妥当と考えられていること)はもはや AI に聞けば良いだけのことであり、覚えるだけの学習の価値は極めて低いと言わざるを得ません。これまでの「暗記して終わり」の学習ではなく、「**教科書**(今回のテーマであれば「**歴史**」)から**学ぶ**」を進める授業により、AI の答えを自分の力で分析し、判断できる生徒の育成に取り組んでまいります。

後期(秋学期)中間テストを実施しました

11月21日(木)、ご紹介しておりました通り今回の定期テストは市内6中学校共通で実施する市中間テストです。教科書の内容をそのまま出題ではなく、一般的な問題等によって学習の定着度について判断しやすいものになっています。ご家庭への配付まで少々時間をいただきますが、今回の結果を冬休みの学習課題としてご活用ください。

